

# » 防災バッグ » 災害に備える

わたしたちが住む山北町の災害の特性を知り、個人・地域・町が一体となって災害への備えを準備して、必ず未来へつなげましょう。



## ① 家族で話し合う

### ● お住まいの地域の被害想定を確認し、「災害時の家族の行動」を約束しましょう

大雨・台風時にはどの河川の氾濫により浸水するか、土砂災害による危険があるか、ハザードマップで確認しましょう。

災害が迫っている、または発生したときに、「どのように行動する」、「誰に連絡する」、「どこで合流する」など、「災害時の家族の行動」を約束をしましょう。



**注意** 被害想定がない地域においても、万一に備えて確認しておきましょう。

## ② 普段から備える

### ● 想定される災害に応じて、命を守る行動は変わります

地震や風水害・火災・火山災害など、災害の種類や住んでいる場所、タイミングなどに応じて、とるべき行動は変化します。

今いる場所や場面（自宅、通勤の途中、職場、買い物中など）に応じて適切な命を守る行動ができるように「災害時の自分の行動」をイメージしましょう。

防災ハンドブックやハザードマップ[Avenza Maps]を持って、避難経路や危険な場所をしっかりと理解しておくこと、より効果的です。

また、もしものために、ライト、予備の電池、ばんそうこうなどの「持ち歩き防災品」、水や食料など長期に備えた備蓄品なども準備しておきましょう。



## ③ みんなで助け合う

### ● 防災訓練などに参加して、助け合い「共助」の必要性を確認しましょう

町や各自主防災会（自治会）が実施する防災訓練に参加して「災害時の地域の行動」を確認しましょう。

防災訓練を通じて、災害発生時の避難行動や助け合いのための約束事を確認できます。顔が見える関係になれば、災害が迫る場面では、避難行動の声掛けや避難支援にもつながります。

消防・警察・自衛隊などの救助部隊でも、大規模地震などの場合に即時に全ての地域に到達することは困難です。一方、救助を要する人が発生した場合には、一刻も早い救出や保護が必要です。

救急車や救助部隊などが到着するまでの間は、可能なあらゆる手段を尽くして、地域で協力して助け合いましょう。

